



えたんべつがわばし
江丹別川橋



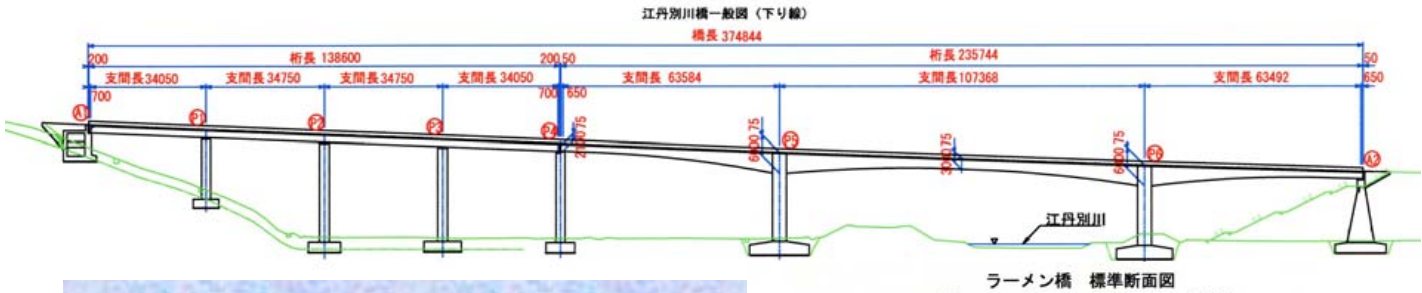
江丹別川橋は、4径間連続PC合成桁橋と3径間連続PCラーメン箱桁橋からなる橋梁です。

本橋は、道央自動車道の一部で、旭川市の北西に位置する江丹別川を横過しています。

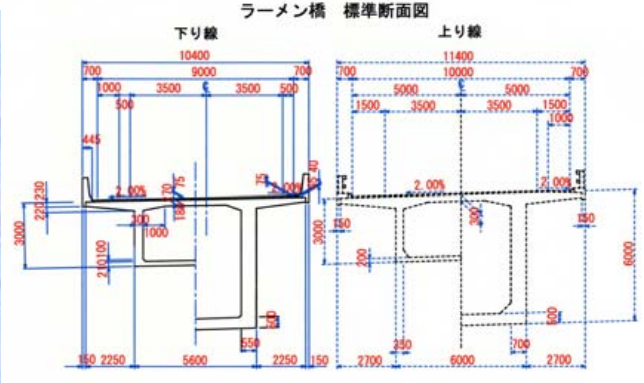
ラーメン橋は張出し架設工法で施工され、架設ケーブルを含むすべてのケーブルはコンクリート部材の外側に配置された全外ケーブル構造を採用しています。

外ケーブル保護管には、グラウト充填の確認が可能な透明シースを採用し、施工に先立って、グラウト充填試験を行い、施工および管理要領を設定しています。

一般図



橋梁諸元



工事名：道央自動車道 江丹別川橋（PC上部工）工事
 発注者：日本道路公団北海道支社
 位置：北海道旭川市江丹別町字嵐山～北海道上川郡鷹栖町北野
 道路規格：第1種3級A規格
 形式：4径間連続PC合成桁橋 + 3径間連続PCラーメン箱桁橋
 荷重：B活荷重
 橋長：374.844m (34.050+2×34.750+2×34.050+63.584+107.368+63.492m)
 有効幅員：下り線：9.510m
 PC鋼材：(ラーメン橋部)
 主ケーブル SWPR7B 19S15.2B (アンダーソン工法)
 SWPR7B 27S15.2B (アンダーソン工法)
 横締め鋼材 SWPR19 1S21.8 (SM工法)

設計概要

- 1) 架設ケーブルを含むすべてのケーブルに外ケーブル構造を採用。
- 架設ケーブルは、毎ブロックごとに配置した定着突起により定着され、突起形状は、天竜川橋（NO.23 掲載）の定着突起実験を踏まえて設定しています。
 - 完成ケーブルは、支間内に設置した偏向部横桁で偏向されるとともに、定着は柱頭部および端支点横桁で行っています。
 - すべての外ケーブルには将来の交換が可能な2重管構造を採用し、偏向部には鋼製のディアボロ管を配置しています。
- 2) 外ケーブルの保護管に透明シースの採用
- 外ケーブルの保護構造として、「透明シース+グラウト充填方式」を採用しており、透明シースを用いることでグラウト充填状態が確認できます。
 - 施工に先立ち、透明シースの施工性確認試験を兼ねたグラウト充填試験を実施し、透明シースおよびグラウト充填に関する施工および管理要領を設定しています。



全景



ケーブル配置状況



定着突起周辺

工程表

	平成11年												平成12年												平成13年								
	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9					
詳細設計																																	
桁製作、架設																																	
脚頭部、柱頭部																																	
張出し施工																																	
中央閉合 側径間施工																																	
橋面工																																	